

(日置郡金峰町中津野下原)

**位置と環境**

遺跡は、金峰町役場より南側へ約500mのところ  
にあり、標高7mの微高地に立地している。この微  
高地は、標高が646.3mで、金峰山の西側に麓に形  
成されたシラスの舌状台地である。

遺跡の周辺は水田となり、東側に金峰山、西側に  
吹上浜となっている。この水田地帯は、南薩で最も  
大きい万之瀬川が吹上浜の砂丘を形成した後背湿地  
にあたる。

遺跡は、万之瀬川に合流する浦之名川で侵食され  
た地形で、金峰中学校内に所在している。

**調査の経緯**

遺跡は、1978年(昭和53年)に金峰統合中学校建  
設に伴って金峰町教育委員会が調査主体となり、県  
内教育委員会の協力を得て本調査を実施した。調査  
は、1977年に中津野西遺跡において消防署建設も含  
めて実施した。

発掘調査は、校舎や体育館など建物で遺跡が壊さ  
れる部分だけの範囲で実施した。この地域は台地の  
北側縁辺部にあたる。

**遺構と遺物**

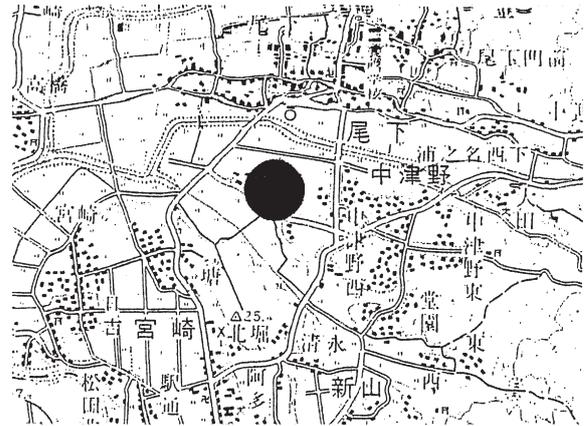
地層は、第1層が表層で耕作土、第2層が暗灰茶  
褐色土層、第3層が暗茶褐色土層、第4層が明茶褐  
色土層、第5層が黒褐色土層、第6層がシラス層と  
なり、第2層下部から第3層上部が遺物包含層であ  
る。

遺構は、一辺が約1.5mの隅丸方形の土坑2基を  
検出し、そのうち1基には大型の壺形土器が出土し  
た。そのほかにはピットが多数検出された。その中  
には、深鉢や底部だけ欠損した壺形土器が一個体分  
が出土した。

ピットを検出した地域は、北西地区に集中し、直  
径が50から20cmと様々である。このピット群では建  
物の復元はできなかった。

遺物包含層は、第2層の下部から第3層上部に縄  
文時代晩期終末の夜臼式土器が出土し、第3層に縄  
文前期の轟式土器と曾畑式土器が出土した。

夜臼式土器は、口縁部と肩部に大きめの刻みを施  
した古手の刻目突帯文の甕形土器と口縁部が縮まっ  
た壺形土器が多数出土している。そのほか、剥片



第1図 下原遺跡の位置

で作った打製石斧や石庖丁が出土した。

壺形土器には、背が高く胴が張らないものと、背  
が低い胴が張るものがある。背の高いものは頸部か  
ら口縁部にかけて短く、肩部が撫で肩である。器面  
は縦研磨により調整している。この形状や研磨技法  
は日本列島にはなく、朝鮮半島に求められるもので  
ある。

石器には、頁岩製の石庖丁が2点出土しているほ  
か、土掘り具と考えられる抉り入りの打製石斧が出  
土している。また、粗雑に作った打製石鏟が多く出  
土した。

**特徴**

この遺跡は、縄文時代晩期に位置付けられる土器  
であるが、弥生時代の要素である稲作の道具として  
の石包丁や壺形土器があり、縄文文化の中に弥生文  
化を残した遺跡である。これは北九州方面と同じ形  
態である。

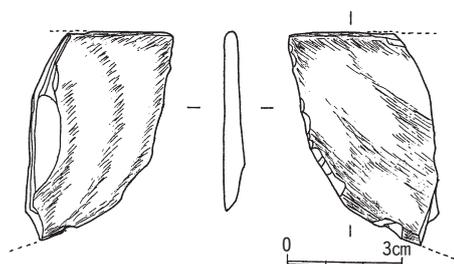
**資料の所在**

出土遺物は、県立埋蔵文化財センターに保管され  
ている。

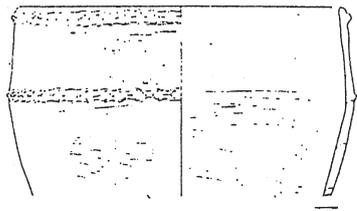
**参考文献**

鹿児島県教育委員会1986『埋蔵文化財の知識』

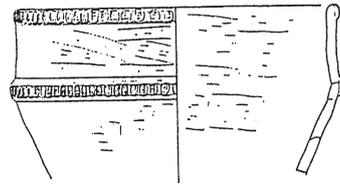
(彌榮久志)



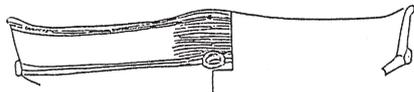
第2図 下原遺跡出土遺物石庖丁型石器



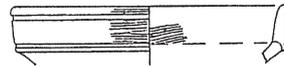
甕形土器



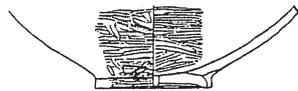
甕形土器



浅鉢



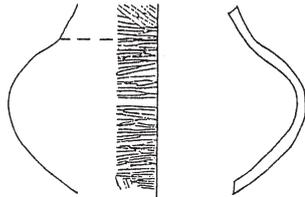
浅鉢



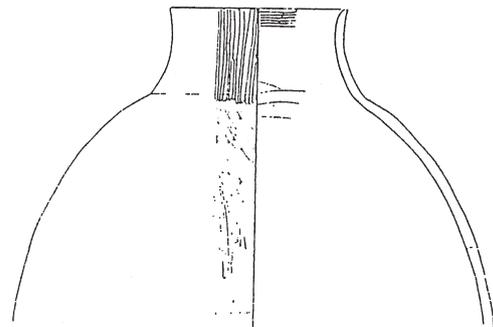
浅鉢



高杯



壺形土器



壺形土器

第3図 下原遺跡出土遺物土器